

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200622		
法人名	社会福祉法人 怡土福祉会		
事業所名	グループホーム怡土		
所在地	福岡市西区徳永1065-1		
自己評価作成日	平成24年10月3日	評価結果確定日	平成24年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=on_kouhyou_detai_2011_022_kan=true&amp;ji_gvsvocd=4071200622-00&amp;Pr_ef_Cd=40&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=on_kouhyou_detai_2011_022_kan=true&amp;ji_gvsvocd=4071200622-00&amp;Pr_ef_Cd=40&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス
所在地	福岡市博多区元町1-6-16
訪問調査日	平成24年10月16日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様の自主性を活かし、それぞれが食事作り、清掃、洗濯などスタッフと共に和気あいあいと行い、レクリエーション、趣味活動など、個々の力に応じ参加できる様にしている。また、自然環境にも恵まれており、散歩、外出をし四季折々に触れることができる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

九大学研都市のほど近く、飲食店や大型スーパー、書店などの建ち並ぶ国道から、道を一本入ったところに立地されており、周囲を畑に囲まれ、海も近く自然に囲まれた好環境にある。ほぼ隣接したところに系列グループの昭和病院があり、医療体制も完備されている。近隣にある中学・高校とも職場体験などで交流があり、地域とも強い連携がとられている。日々のレクリエーションはご本人の意思を尊重し、他施設と連携した陶芸活動や脳トレ、塗り絵など興味をもったものに取り組んでもらっている。散歩などの外出は自由に行え、玄関先にあるベンチで日光浴などを思い思いに行われている。ドライブや買物にも週2、3回の頻度で行っており、行事の際はご家族も一緒に季節の花見や、糸島などを訪れている。  
開設から11年が経ち、地域との連携も強固にとられ、地域防災への参加や有事の相互協力などで協定書も取り交わされ、今後も地域になくてはならない事業所として貢献されていくことが期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりを尊重し、和気あいあい。地域の一人として生きがいのある暮らし」を理念とし、毎朝レクリエーション後に口に出し読み上げ実践できるよう努めている。	設立時に作られた理念を職員全員で改善してきて、今ではわかりやすく納得の出来る理念となった。毎日の朝礼時に利用者も一緒になって職員と唱和しており、日々のサービスで実践している。職員、利用者、ホームが一体となって地域の一人として交流を育んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や夏祭りに参加し、日常の散歩や買い物の外出の際は地域との交流を心がけて実践している。また、近隣中高校生の福祉体験、職場体験も毎年受け入れている。	町内会に入っており、職員が年に1、2回の地域清掃に参加したり、夏祭りには利用者も一緒に参加し、町内の住民も気軽に訪れる雰囲気が出来ている。2年に一度、地域と合同で利用者の作品の展示会を行い、事務所の一角を開放し地域住民も自由に見学に訪れている。近隣中学、高校の職場体験、実習、ボランティアの受け入れも行っており、地域の一員としてなくてはならない存在になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、自治会の方と意見交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、実施報告をし、今後のサービス向上の為の意見交換や地域の情報を収集している。	利用者、家族、地域住民も毎回参加しており、事業所からの報告の他にも民生委員からは地区の情報を頂いており、双方向の会議が運用されている。リビングを使って利用者全員も一緒に参加して、家族の不安や希望などにもその場で回答し、真摯に取り組んでいる。議事録は誰にでも閲覧できるように公開しており開放的な運営につながっている。	家族や地域との協力はよくなされているが、市町村の高齢福祉課などへの案内や報告が未実施のため、今後は市町村の担当課への参加を呼びかけ、協力体制を築いていくことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの方に事業所へ来て頂き、情報交換を行っている。また、サービス向上へのアドバイスを頂いている。	包括支援センターの職員は日常的に行き来しており、空き情報や出前講座の案内など情報交換はまめに行われている。相談員は併設のケアハウスとも兼務で業務にあたっており、市区町村にもまめに、情報提供や電話による相談などを行い、何かあったときに相談しやすい関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部・外部研修に参加し、身体拘束についての理解をしている。3ヶ月に1回委員会を行い、拘束のないケアについて確認している。	玄関の施錠はリモコンによる自動開閉で行っており、職員見守りの下、日中は利用者も自分で開閉出来るようになっている。拘束に関する研修も外部研修、内部研修で行い、言葉による拘束などないように職員全体で教育、学習を行っている。事例はないが3ヶ月に1回拘束委員会を開き、職員の意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、虐待のないように努めている。		

自己・外部評価表(GH怡土)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修へ参加し、知識を得ると共に必要と思われる家族へは情報を提供し支援に努めている。	成年後見制度を使っているご利用者もおり、管理者、相談員を中心に、年1回の定期的な外部研修の参加により習得した知識を内部の伝達研修により全職員に周知し、事業所全体で理解されている。説明用の資料なども準備されており、必要な際は情報提供できる体制がとられている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は充分時間を取り、家族へ説明をし、その都度不明な点がない事を確認している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などで家族より上がった意見は、すぐに取り上げ皆で話し合い運営に反映させている。	開所時から年に2、3回家族の会を開催しており、家族会長を中心に出席率も高く、活発な意見交換がなされている。リビングを使い話しやすい雰囲気運営され、介護に関する図書やDVDの貸出やボランティアの招待の拡充などにつながった。家族も共に事業所を盛り上げていくという意識を高く持たれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員で話あった要望や意見を月に一度の職員会議で伝え反映させている。	全体会議にはスタッフの代表が参加しており、パート職員の意見なども伝達し共有している。活発に意見が取り交わされており、会議時の提案も迅速に反映されている。管理者とも普段のケアの中で気軽に相談できる雰囲気が出来ており、フォローの体制もしっかりとられており働きやすい環境が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修参加のバランスや勤務状況の確認などは常に行い、介護技術や管理能力の向上を図るために短期間の関連施設への人事異動を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	高齢者、障がい者雇用については実績もあり、採用対象となっている。また、定年再雇用制度を取り入れており、社会参加や自己実現の権利は充分保証されている。	新任のスタッフもベテランのスタッフと共に連携がとれ、各年代分け隔てなく働きやすい環境となっている。料理やレクリエーションにも職員の提案や能力を活かして運営している。資格取得や希望があった際もシフトを融通して協力されている。60才を超えた場合も再雇用制度があり、実際に勤務にもつながっている。特別支援学校から障害者職場実習の受け入れも行っており、今後は採用に向けても検討していく予定である。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	同和研修、人権学習に参加し入居者、職員に関する事など幅広く学習し、また内部研修も行っている。	年1、2回の権利擁護研修に参加し、内部研修により全体で共有している。ケアの際も一人一人を尊重した言葉かけに留意しており、ご家族に対しても状況などに配慮した関わりに気をつけている。	

自己・外部評価表(GH怡土)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の際に、職員一人ひとりの介護技術バランスを考慮し、平均した受講となるよう取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	週1度他施設(老健)の陶芸クラブへの参加や、地域密着部会への参加を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族と密に接し、得た情報をスタッフ間で共有し安全・安心に生活できる様援助している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族来所時、ケアプラン作成時に直接対話することを心がけている。また、要望があればスタッフ間で話し合い対応できるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者が本人・家族と話し合い、得た情報を元に会議を行い本人に合うサービスを探し、本人・家族と共に意見交換を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手を尊重しつつその方に合った日常作業を共に行い、分からないことは教えて頂きながら過ごしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時にはゆっくりと話が出来る環境を整えている。また、スタッフも一緒に話し近況報告など行い援助している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出などで本人のなじみの場所へ出かけたり、時には家族に協力を得て知人・親戚と会う機会を設けて頂いている。	ご本人の希望に満足行くまで応えられるように、住み慣れた場所を訪れたり、馴染みの物を取り寄せたり、家族の協力の下、知人や友人に訪問してもらっている。また、ご本人・ご家族・スタッフの三者の関わりを重んじ、入居してからの関わりを大事に育てている。	

自己・外部評価表(GH怡土)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席など気の合う方と会話ができる様工夫している。また、入居者同士で入浴や食事の声かけをして頂いている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へスタッフが訪問したり、電話や手紙などにて家族と連絡を取りフォローできるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と対話し観察し気持ちを汲み取り援助を行なっている。意思の伝達が困難な方には家族と話しあい意向の把握に努めている。	意欲の乏しいご利用者に対しては家族の協力の下注意深く聞き取っている。また、興味を持たれるようなことから話を広げたり、様々な役割を担ってもらうことで何に楽しみを感じるかを読み取っている。ご利用者毎に担当者を決め、個別にきめ細かく意向を把握するようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴を家族・本人より聞き取りを行なっている。また、施設利用時は施設と連絡を取り把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、常に体調の変化に注意を払っている。また、本人のペースにあわせ一日を過ごせるように援助を行なっている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時に家族・本人と直接話し合い、意向に基づき作成している。また、専門分野の方の助言を得てよりよい生活が出来るよう心がけている。	1人の職員が2人のご利用者を受け持つ担当制にしている。モニタリングは状況の変化があった際や3ヶ月毎に家族や担当職員も交えて行っている。勉強会の中でもご利用者からの目線でサービスを検討しており、様々な視点からのアプローチで事例検討を行い、本人本位のサービスが出来るよう研鑽されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいたことはすぐに記録できるよう個別記録へケアプランを配置し、それに基づき記入を行なっている。スタッフ間で情報交換し見直しを行なっている。		

自己・外部評価表(GH怡土)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々状況要望に合わせて対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々と交流したり、スーパーへ買い物に外出したりして楽しんでもらっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にしている連携病院にかかりつけ医がおり、適切な医療が受けられるよう支援している。	近隣に関係病院があるが、基本的には希望する病院を利用してもらっている。事業所の方針として、原則、家族に通院介助を行ってもらっており、ご本人の病状の理解や経緯の把握に齟齬がないようにしている。緊急時や必要な際は職員による介助も行い、状況の共有も家族と細かく行うよう徹底されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定を行い、体調の変化などを伝えている。病院受診や看護の判断してもらっている。また、体調管理方法について助言を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者の状態を訪問や電話にて情報交換行なっている。また、相談も受けてもらっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化に伴う対応について」を説明し同意を得ている。終末ケアについては、現在行なっていないが、できる限りホームで生活してもらうよう努めている。重度化した場合は病院、他施設と連絡を取り支援している。	対象となるようなケースはないが、必要時は関連病院との連携をとり、病院・施設への転院・転所のサポートを行う仕組みが出来ている。契約時にもご利用者・ご家族に対して説明しており、対応に対しての理解・同意を得るようにされている。	原則、看取りをする方針はないが、今後予想されるケースの発生に備えて、職員に対しての研修や勉強会などを行い知識を深めていくことが期待される。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の研修に参加している。また、勉強会にて応急手当や初期対応の訓練も行なっている。		

自己・外部評価表(GH怡土)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中及び夜間を想定し、避難、消防訓練を行なっている。緊急連絡網を作成しており地域の方との協力体制を築いている。	年に2回、避難、消防、夜間想定防災訓練を地域とも合同で行っている他、地域防災訓練にも参加している。地域との連携も深めており、町内三役の防災担当者とも相談の上、防災に関する協定書を町内会と取り交わすまでになった。防災と地域貢献に対する意識は高く、備蓄物や避難などで相互に協力する体制がとられている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や衣類交換の際自尊心を傷つけないよう声かけしている。	外部研修などで、礼儀や接遇に関する学習をしており、毎日の申し送り時などに、ご本人に配慮した言葉かけやケアに対する気遣いに関しては注意するようにしている。プライバシー保護のためにご本人の写真を撮る際には必ず事前の了承を得るようにしている。	日々のケアにおけるプライバシーの確保や人権の尊重はよくなされているが、個人情報保護の観点から、改めて個人情報保護方針、規定、利用と同意などに関しての職員の理解と共有を深めていくことが今後期待される。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物の希望があれば出かけられる時間を伝え了解してもらい出掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除、食事作り、レクレーション趣味活動において自由に参加できるよう、また外出など本人の希望に添えるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え、入浴準備の時に一緒に選んだり、散髪は本人の希望に添いカットしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切り・盛付をお願いし準備したり、その人の好みを取り入れたりして食べやすい工夫をしている。	配膳・下膳や下ごしらえなど手伝える方は能力を活かして皆が参加し手伝ってもらっている。メニューは職員が考え、栄養士が管理し、好き嫌いのある方には個別の対応も行い、味付けも細かく要望を聞き取っている。ほとんど全てのご利用者が完食され食事を楽しんでいる。外食や行事食などによってバリエーションに富んだ食事を提供している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の健康状態を把握し摂取量を考え、おやつ時入浴後水分補給を行なっている。		

自己・外部評価表(GH怡土)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の力に応じた口腔ケアの介助をしている。義歯の方は夜間預かり洗浄している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を用いてパターンの把握、食事前後のトイレ誘導を行っている。	排泄のリズムはパート職員も含めて全員が把握しており、自立している方、声かけが必要な方などそれぞれに合わせたケアを行っている。失敗した際も近くに寄り過ぎて周りに分からないように配慮しながらさりげない介助を心がけている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の服用を行い調整したり献立に食物繊維を多く取り入れる工夫をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月・水・金の午後より入浴2人ずつ声かけをし、ゆっくり入浴していただいている。	基本的には2人ずつだが、羞恥心にも配慮し、気心の知れたペアや希望によって個浴の対応も行っている。浴槽は貯め流しで清潔を保っており、洗髪剤などもご本人の使いやすい物を使用している。拒否がある方には家族の協力を得ながら対応しており、ご本人のタイミングで入浴してもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不穏の方の見守り、不眠だった方は日中少し休息していただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理、バイタル測定、排泄のチェックを行い、症状の変化は些細な事でも申し送り時確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出を好まれる方との買い物や陶芸教室を習ってある。		



自己・外部評価表(GH怡土)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と買い物へ出かけたり、天気の良い日は散歩、外食、ドライブに出かけている。家族の協力もあり外出もされている。	日常的な散歩は自由に行ってもらい、ドライブや買物なども頻繁に行っている。年に3回は家族も一緒に共同レクリエーションでバスハイクなども行っている。固定のご利用者に偏らないように入れ替わりで買物やドライブなどはしており、全員が外出を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が金銭管理をしているが、金銭の額や用途については家族と相談し合意得ながら行なっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により家族の方へ電話できるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を植え室内も季節にあわせ装飾している。トイレなども汚染時には清掃し衛生管理を行うと共に適温適湿に気をつけ居心地良く過ごせるようにしている。	清潔感が保たれ、見通しの良い間取りでリビングは広く確保されている。天窓があって暖かい日差しが採光がされており、ご利用者の作品の展示などと共に事業所の柔らかで暖かみのある雰囲気だされている	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、ソファの配置でそれぞれ好きな場所で気の合う人と談笑したり本や新聞を読まれ、一人になりたい時は居室で過ごしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し本人の使い慣れた家具や趣味の道具、なじみの物を持ち込んでもらい個性も大切にしている。	広めの居室には備え付けの床頭台、木製ベッド、洗面台があり、出窓の外には近隣の畑が臨め季節を感じさせる。ご利用者は自由に家財の持ち込みができ、家族の写真や仏壇、テレビなどで思い思いの空間を作っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋の理解が出来ない方には入り口に大きめの字、色で名前を書き工夫している。		